

## 待降節第三主日

2011.12.11

ヨハネ 1・6-8,19-28

待降節のこの時期、祭壇の前に特別に飾られた四本のローソクに今日は三つの灯りが灯され、クリスマスも間近になって来たことを告げています。教会は毎年このようにして、静かな、しかし、次第にあふれ、みなぎって行く喜びのうちにクリスマスを迎えます。待降節の主日ごとに、一本また一本と数を増してゆくローソクの光は、そのようにして、確実に近づいて来るクリスマスの喜びに私たちを招いています。

待降節のこのローソクの灯火は、クリスマスに向けて私たちの心に灯されるべき、喜びに満ちた希望の光のシンボルです。待降節のこのローソクは、待降節のミサの時に灯されます。このことには、どのような意味があるのでしょうか。

私たちがクリスマスにその誕生を祝う、救い主イエス・キリストは、すでに、私たちの中にいてくださるのです。こうしてミサに参加するたびに、私たちは、私たちの中に救い主イエス・キリストを迎え、イエス・キリストと出会い、その教えに耳を傾け、イエス・キリストのいのちのパンに養われているのです。そのミサの中で、クリスマスを前に今年も待降節のローソクが灯されているのです。このことの意味を私たちは深く受け止めなければなりません。

今日の福音の中で、洗礼者ヨハネは救い主イエス・キリストを指し示して、「あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。」と証しています。洗礼者ヨハネのこのことばが、もしもそのまま、今日もこのミサに集う私たちに向けられているとするなら、そして、ここに集う私たちが、このことばの前に頭を垂れて一言の抗弁も出来ないとするなら、それは、私たち以上に、このミサの中にとともにいてくださる私たちの救い主イエスにとって、限りなく悲しいことであるにちがいありません。

私たちの救い主イエス・キリストは私たちをここに呼び集めるために、ベツレヘムの馬屋にお生まれになったのです。私たちが生きるこの世界と、その中に生きる私たち一人ひとりの人生は、決して神に見捨てられているのではないことを私たちに告げるために、神ご自身が人となって私たちの世界に来てくださったのです。そのことを信じた私たちをここに呼び集めるために、クリスマスはあったのです。

待降節のミサの度ごとに、一本ずつ灯されて、光を増してゆく待降節のロー

ソクの灯りは、私たちの悔い改めのしるしでもあります。その灯火を灯し続けるために炎の下から滴る蠟のしずくは、私たちの悔い改めの涙の象徴です。悔い改めの涙なしに、私たちは、私たちの中に灯されたクリスマスの希望の光を灯し続けることは出来ません。何故なら、この世の生活を生きる私たちは、クリスマスの夜私たちの中にお生まれになったお方を、いともたやすく見失ってしまう誘惑にさらされているからです。クリスマスの夜、私たちの中にお生まれになったお方は、今このミサの中にいてくださり、そのいのちを私たちに分け与えられようとしておられることに気付こうとする気力が萎えてしまいがちだからです。そのありがたさが、私たちの心に伝わってこなくなってしまうがちだからです。もしそうであるなら、このミサの中に私たちとともにいてくださる、私たちの救い主イエス・キリストは、洗礼者のことばのとおり、再び、私たちにとって、私たちのうちにおられる見知らぬ人になってしまうのです。そのようなことがあってよいはずがありません。そのことに気づいて悔い改めの涙を流すことなしに、今年もクリスマスの祝いが私たちの中に灯そうとしている希望の光は、一夜限りで私たちのうちで消えてしまうのです。待降節のローソクはその身を細らせながら、私たちにこのように訴えかけているのです。

そのように受け止めるなら、待降節のローソクの灯火は、今日の福音に語られている、洗礼者ヨハネとも重なるように思えます。待降節のローソクはクリスマスになれば片付けられてしまいます。クリスマスの夜に灯される喜びに満ちた圧倒的な光の中で、待降節のローソクはもはや役目を終えるのです。洗礼者ヨハネもそのようにして、彼の後から来られる救い主のもたらす光を指し示しつつ、その役目を終えたのです。

待降節のローソクが、そして今日の福音の洗礼者ヨハネが、その身を犠牲にして私たち訴えていることは、救い主イエス・キリストがその誕生によって私たちにもたらしてくださった救いの恵みに、私たちが新たな心で向き合うことです。

私たちが新たな心でクリスマスの恵みに向き合うことが出来る時、私たちのこの世界の中に、そして、その中に生きる私たちの日々の中に、私たちの救い主イエス・キリストがもたらしてくださった、私たちの闇を照らす真の光を新たな喜びをもって見出すことが出来るでしょう。迎えるクリスマスが、そのような新たなクリスマスとなるよう、待降節のローソクの光に目を向けつつ、この待降節のミサをおささげいたしましょう。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高